

審議題：「和歌山県立高等学校の今後の在り方について」

### 1 全日制高等学校の適正な学校規模の在り方

現 行：望ましい学校規模（適正規模）は1学年4～8学級（平成17年度以降）



主な意見：  
・上記適正規模は妥当  
・しかし、地域の実情や要望等を踏まえた弾力的な運用が必要

### 2 分校・分校舎などの小規模校の今後の在り方

主な意見：  
・分校などの小規模校は、不登校など多様な課題をもつ生徒の学びの場として、また、地域の文化、教育の拠点として、大きな役割を担う存在であるため、再編は慎重に進めるべき  
・分校については、困難な通学環境等を考慮し、寄宿舍の整備、通学バス等、様々な条件整備を検討すべき

### 3 定時制高等学校の今後の在り方

現 行：入学者数が2年連続、募集定員の20%未満で、募集停止を検討（昭和54年度以降）



主な意見：  
・定時制高校は学び直しの場となっており、中途退学者や不登校経験者等、多様な生徒の学習場所を、通学可能な範囲に配置することは重要  
・このようなことから、入学者数が2年連続、募集定員の20%を下回っても、存廃については慎重な検討が必要  
・伊都中央高校、きのくに青雲高校、南紀高校については、定時制・通信制教育の拠点校として、内容を充実させるべき

### 4 多様なニーズに応えるための学校の特色化

主な取組：  
・企業とのマッチングや就職支援の更なる推進  
・発達障害など、特別な支援を要する生徒への対応も必要  
・特色ある教育を実践する学校における全国募集の検討も必要  
・寄宿舍等の整備の検討も必要  
・より専門性の高い教員の育成

○ 6月上旬に「第2期きのくに教育審議会報告書」を審議会会長から手交の予定。